

2019年 我が社の環境ビジネス戦略



堀切 勇真氏

代表取締役
A T ホールディングス(アドバンティク・レヒューズ、三協興産・キヨスミ産研)

私はグループ各社の代表を兼務しており、それぞれの会社に腰を落ち着けて内部の事をしっかり見るといふことはなかなかできないので、次の経営者、リーダーを育てるのが大きな課題だと思っている。すでに各社に私のアイデアや依頼を理解して業務を回してくれる

水流して働いても、結果どれだけ利益が残ったかというところが曖昧だった

グループファイロソフィーを策定 退職者を1人も出さないことが使命

「16、17年とM&A案件が続いたが、18年は現在のグループ各社を安定させることや人材育成など底上げに注力した1年だった。われわれの社員に対する考え方が周囲にも広まってきている中で現在進行中のM&A案件もあるが昨年の成約には至らず、その分現グループ会社の底上げに力を注ぎることができた。

「三協興産とキヨスミ産研については従来売上偏重主義的な面があったが、この1年で中身の見直しを行った。社員が汗を流して働いても、結果どれだけ利益が残ったかというところが曖昧だった

を精査し、働いた分の対価をしっかりと還元できるようにした。結果、粗利率はキヨスミ産研では2年前に比べ12%増加している。そこで浮いたお金は社員への還元やお客様・協力会社様への投資に回している。今後には必ず生き残ると信じている。各方面への先行投資が花開くような、会社として強い下地ができ上がりつつある状況だ」

「M&Aを実施して、この厳しい現実を思い知った2年間であった。だからこそ理念に共感する人や大事にしているものが近い人には、もっとも何かにあがたいという思いを強くしている」

「人財の育成や理念の共有については、共通の理念のもと、人財の育成についてはそれぞれの会社のステージに合わせて着実に進めている。M&Aを実施して、この厳しい現実を思い知った2年間であった。だからこそ理念に共感する人や大事にしているものが近い人には、もっとも何かにあがたいという思いを強くしている」

「三協興産でもこの評価方法を取り入れた2年間であった。だからこそ理念に共感する人や大事にしているものが近い人には、もっとも何かにあがたいという思いを強くしている」

「三協興産でもこの評価方法を取り入れた2年間であった。だからこそ理念に共感する人や大事にしているものが近い人には、もっとも何かにあがたいという思いを強くしている」

「三協興産でもこの評価方法を取り入れた2年間であった。だからこそ理念に共感する人や大事にしているものが近い人には、もっとも何かにあがたいという思いを強くしている」

「三協興産については全員が同じ方向を向くためにどうしても時間を要するし、グループ哲学と考える方が大事にしていることが違っている人が存在することも避けられない状況だ。ア

「三協興産については全員が同じ方向を向くためにどうしても時間を要するし、グループ哲学と考える方が大事にしていることが違っている人が存在することも避けられない状況だ。ア

「三協興産については全員が同じ方向を向くためにどうしても時間を要するし、グループ哲学と考える方が大事にしていることが違っている人が存在することも避けられない状況だ。ア